

特集：産学連携による教育システム情報学の価値創造と今後の展開

eラーニングプロフェッショナル資格制度の
立ち上げと運営

——産業界から見た産学連携事例——

仲林 清^{*,**}Launch and Operation of the e-Learning Professional
Qualification System

—A Case of Industry–Academia Collaboration—

Kiyoshi NAKABAYASHI^{*,**}

1. はじめに

産学連携事例として、NPO 法人日本イーラーニングコンソシアム (eLC) の eラーニングプロフェッショナル資格制度 (eLP 資格) を取り上げる。2007 年度に資格制度が発足し、eラーニングプロフェッショナル資格保持者は企業の教育研修担当者を中心に 1,000 名を超える。eLP 資格は産業界を中心に運営されているが、発足以前から、JSiSE 関係者を中心に学界との連携が行われている。今回、発足当時の経緯、産業界の問題意識、学界への期待、資格の内容、産業界への影響、今後の方向性を、eLP 研修委員会 (以下、eLP 委員会) 関係者の方々に座談会形式でうかがった。

出席者は以下の方々である。

小松秀圀氏は、富士ゼロックス(株)、NTT ラーニングシステムズ(株)で、長年、企業内教育の分野に携わってこられた。2001 年の eLC 設立時から会長を務められ、現在は名誉会長である。CAI 学会の時代から JSiSE 会員であり、理事も長年務められてきた。

寺田佳子氏は、(株)ジェイ・キャストで eラーニング事業に携わられており、eLP 委員会の委員長である。JICA の国際協力プロジェクトなどに参画され、

複数の大学で非常勤講師も務められている。

合田美子氏は、フロリダ工科大学科学教育専攻で Ph.D を取得されたのち、青山学院大学、大手前大学を経て、現在、熊本大学教授システム学研究センター准教授である。eLP 委員会には、青山学院大学在籍時から携わってこられた。JSiSE では、学会誌・英文誌編集委員を歴任されている。

2. eLP 資格の発足：当時の問題意識

仲林 最初に、小松さんから、発足当時の経緯、資格立ち上げにあたって“産”が解決しようとした問題点、“学”に対して期待していたことをお願いします。

小松 私は、企業内教育でメディアを使った教授法の道をずっと歩いてきました。こんな歴史から、“産”から“学”への期待を話させていただきます。

まず、“学”で教えられる理論が、“産”で使えるような、活用ノウハウを加えた形で学習できるようになることです。例えば、アメリカのボーイング社などにかがうと、インストラクショナルデザイン (ID) を長いことやってみて、結局一番重要だったのは“何を教えたらいいのか”という ID の Step の“教えるべき

* 千葉工業大学情報科学部 (Faculty of Information and Computer Science, Chiba Institute of Technology)

** 熊本大学教授システム学専攻 (Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University)